

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2022年11月分)

2022年12月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[大統領評議会就任式\(16日\)](#)

●[HDZ・ボシュニャク系8政党連合の連立合意\(29日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[BH連邦上院選出人数の確定\(4日\)](#)

イ スルプスカ共和国

●[SDS執行部の辞任\(3日\)](#)

●[RS大統領及びRS国民議会の就任宣誓式\(15日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[EUFORマンデートの延長決定\(2日\)](#)

●[NATO加盟に向けた年次改革プログラムの採択\(9日\)](#)

●[ヴァールヘイ欧州委員のBH訪問\(28日～29日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ピーチ英国西バルカン特使のBH訪問\(22日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[大統領評議会議長への離任表敬\(2日\)](#)

●[副首相兼外相への離任表敬\(17日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報をつとまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●大統領評議会就任式(16日)

16日、総選挙によって選出されたBH大統領評議会新メンバーの就任式が実施され、ツビヤノビッチ議長(セルビア系)、ベチロビッチ・ボシュニャク系メンバー及びコムシッチ・クロアチア系メンバーがそれぞれ宣誓を行った。

就任式には閣僚、エンティティ首相、政党党首、各国大使等の要人が参加したが、コムシッチ・メンバーの正当性を認めていないHDZ所属のクロアチア系要人は欠席した。

●HDZ・ボシュニャク系8政党連合の連立合意(29日)

29日、HDZ及び「8政党」(SDP、NS、NiPを中心とする、主にボシュニャク系の8政党によるグループ)は、チョービッチHDZ党首及びニクシッチSDP党首を署名者として、議会及び行政府における連立合意を締結した。今後、国政においてはセルビア系のSNSDも含めた連立協議が継続される見通し。

合意文書には、BHのEU・NATO加盟、法の支配強化、市民生活及び経済の発展等、今後4年間で取り組むべき課題が挙げられた。

(2) エンティティ、特別区

ア ポスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●BH連邦上院選出人数の確定(4日)

4日、BH中央選挙管理委員会(CEC)は、BH連邦上院議員のカントンごとの選出人数を決定した。本決定はシュミット上級代表による10月2日のボン・パワー行使で連邦上院の定数が58→80へ拡大したことに伴うもので、賛成4・反対2で採択された。

イ スルブスカ共和国

●SDS執行部の辞任(3日)

3日、SDS(RS最大野党)はBH総選挙における結果の責任を取り、シャロビッチ党首及び執行部役員が辞任する旨発表した。

シャロビッチ党首は、トリビッチPDP副党首(RS大統領選における野党統一候補)の敗北、国政及びエンティティ各レベルにおけるSDSの敗北等に言及し、選挙結果が振るわなかったことについて言い訳はしないと辞任の理由を述べた。

●RS大統領及びRS国民議会の就任宣誓式(15日)

15日、RS大統領及びRS国民議会の就任宣誓式が実施され、ドディックRS大統領、プラニッチ同副大統領(クロアチア系)、ドゥラコビッチ同副大統領(ボシュニャク系)に加え、ツビヤノビッチBH大統領評議会議長が宣誓を行った。式典後の国民議会初回会合において、ステバンディッチ・統一スルブスカ(US)党首がRS国民議会の新議長に選出された。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●EUFORマンデートの延長決定(12日)

2日、国連安保理会合において、EUFORマンデートの1年延長が決定した。これに対し、ジャフェロビッチBH大統領評議会議長(ボシュニャク系)、シュミット上級代表等から賛意が示された。

●テゲルティヤ閣僚評議会議長のベルリン・プロセス首脳会合出席(3日)

3日、テゲルティヤ閣僚評議会議長はベルリンで開催されたベルリン・プロセス首脳会合に出席した。会合では地域共通市場の枠組みに

おける協力、エネルギー情勢、西バルカンにおける移民問題等が協議された。また、テゲルティヤ議長は、人の移動の自由に関する合意（西バルカン諸国のIDカードによる移動の自由）、医師、歯科医師、建築士の専門資格の相互承認に関する合意、西バルカンにおける高等教育資格の相互承認に関する合意にそれぞれ署名した。

●NATO加盟に向けた年次改革プログラムの採択(9日)

9日、BH閣僚評議会は第57回定例会合において、NATO加盟に向けた2021年～2022年の年次改革プログラム(ANP)を採択した。報道によれば、テゲルティヤ閣僚評議会議長(セルビア系)がANPを議題とすることを拒否していたため、定例会合の度重なる延期の要因となったとされる。

今般の閣僚評議会による採択を受け、ANPは通常的外交手続きに則ってNATO本部(ブリュッセル)に送付される見込み。

●ヴァールヘイ欧州委員のBH訪問(28日～29日)

28日～29日、ヴァールヘイ欧州委近隣・拡大政策担当委員がBHを訪問し、大統領評議会3メンバー、ドディックRS大統領、テゲルティヤ閣僚評議会議長、シュミット上級代表及びHDZ、SDA、ボシュニャク系政党連合各党首と会談した。

ヴァールヘイ委員は各関係者とBHのEU加盟等につき意見を交わし、選挙後の新体制における改革の迅速な履行の必要性を指摘しつつ、組織犯罪防止・国境管理強化等へのEUからの追加支援につき述べた。

(2)二国間関係

●ピーチ英国西バルカン特使のBH訪問(3日)

22日、ピーチ英国西バルカン特使がBHを訪問し、ベチロビッチBH大統領評議会ボシュニャク系メンバー及びコムシッチ同クロアチア系メンバーと会談した。なお、英国の制裁対象となっているツビヤノビッチ同議長は会談に参加しなかった。

会談では対BH投資の誘致を含めた両国の経済関係の強化の重要性が話題となった。ピーチ特使は、BHのエネルギー独立性強化及び雇用創出、同分野における競争力の強化等に資する英国の投資計画につき説明した。

(3)日・BH関係

●伊藤大使離任レセプションの開催(2日)

2日、サラエボ市内のホテルにて伊藤前駐BH日本国大使の離任レセプションが開催された。伊藤前大使は、任期中に日・BH関係の強化に貢献できたと述べ、多くの協力と支援に対して謝意を表明した。



(写真:レセプションの様子)

●大統領評議会議長への離任表敬(2日)

2日、伊藤前駐BH日本国大使はジャフェロビッチBH大統領評議会議長に対する離任表敬を行い、日・BH間の協力について意見を交わした。ジャフェロビッチ議長は、両国間の友好関係促進に対する伊藤大使の貢献及び日本からの長年にわたる対BH支援に謝意を述べた。



(写真:伊藤前大使とジャフェロビッチ議長)

●副首相兼外相への離任表敬(17日)

17日、伊藤前駐BH日本国大使はトゥルコビッチ副首相兼外相に対する離任表敬を行い、両国の友好関係及びBH政治情勢について意見交換を行った。トゥルコビッチ外相は、日本のBHに対する支援に謝意を表明した。



(写真:伊藤前大使とトゥルコビッチ外相)

3. 経済

(1) 経済指標

●BHの対外債務は97.7億KM(9日)

BH財務省の統計によれば、本年9月時点でのBHの対外債務は97.7億KM(うちBH連邦55.5億KM、RS41.1億KM、ブルチユコ行政区4.81億KM)。最も大きいのは対世銀の債務(国際復興開発銀行(IBRD)12.2億KM、国際開発協会(IDA)15.5億)であり、その後に欧州開発銀行(EIB:21億KM)、IMF(9.47億KM)が続く。

●9月の平均給与額は1,154KM(21日)

本年9月のBHにおける平均月額給与は1,154KMで、昨年同月比+14.7%。

●貿易総額の増加(22日)

本年1月～10月において、BHの対外輸出総額は154億4,700万KM(前年同期比+31.5%)、輸入総額は237億100万KM(前年同期比+36.7%)。貿易総額のうち、輸入が占める割合は63.5%で、貿易赤字は86億5,400万KM。

なお、同時期のBHからEUへの輸出額は11億900万KM(前年同期比+31.7%)、輸入額は134億4000万KM(前年同期比+30%)。

(2) 経済政策・公共事業

●鉱山労働者によるストライキ(22日)

11月22日朝、トゥズラ・クレカ鉱山及びゼニツァ鉱山(いずれも石炭・褐炭類を生産)の労働者が10月分の給与の未払いへの抗議及び賃上げ要求のためストライキを行った。

BH電力公社及びBH連邦鉱山労働者労組間の賃金にかかる契約は本年5月に更新され、年内有効とされているが、新たな契約の締結に向けた交渉がまとまらず、労組側は賃上げ

を求めている。

10月分の支払いを受けたことで同日中にストライキは解除されたが、次年の契約締結にかかる交渉は引き続き行われる。

(3) 経済協力

●西バルカン・ノルウェーのエネルギー分野における協力可能性(17日)

17日、テゲルティヤ閣僚評議会議長は、ノルウェーの主催によりセルビアのベオグラードで開かれた「西バルカンにおける再生可能エネルギー源への投資可能性」をテーマとする会合に出席し、西バルカン各国首脳と地域におけるエネルギー情勢及びノルウェーからの投資可能性等につき意見を交わした。

テゲルティヤ議長は、エネルギー分野での他国との協力強化には大きな関心があるとしつつ、BHにおいては設備の老朽化の課題があり、メンテナンスの必要性があると指摘した。

(4) 民間セクター

●米・英によるエネルギー分野への投資(18日)

英国 Alfa Energy 社及び米国 Edison Energy 社はパートナーシップ協定を結び、BHにおけるエネルギー分野への新規投資を行う旨発表した。主な内容は各企業をターゲットとしたコンサルティング業務であり、脱炭素化プロセスの支援を行う。